

「自分を変えたインターンシップ」 国際シンポジウムで 学生ら取り組み発表

中央大学が推進するグローバル人材育成のシンポジウム、「グローバル人材育成を未来につなぐ」～学部教育におけるグローバル人材育成の取り組みと計画～は3月15日、東京・中大駿河台記念館で行われた。



発表する山崎さん

シンポジウムの構成は次の通り。

第1部・学部におけるグローバル人材育成の取り組みと計画。

第2部・学部長によるプレゼンテーション「私の考える『国際化』」

同パネルディスカッション「大学の国際化とグローバル人材育成の未来」

年々関心が高まるテーマに中大の酒井総長・学長、中島法学部長、篠原経済学部長、木立商学部長、石井理工学部長、都筑文学部長、松野総合政策学部長らが取り組むとあって、会場には前年の倍近い約100人が来場した。

第1部は6学部の代表者による発表で、学生のコメントから、大いなるチャレンジ精神が伝わってきた。滞在先でのエピソードも満載で、聴講者はうなずいたり、ほほ笑んだり。

経済学部の山崎遥さん(発表時、2年)がマイクを握ると会場の高校生がそれまでも増して居住まいを正した。

身を乗りだす高校生

山崎さんの母校・浦和学院高国際類型グローバル(国際)コースの生徒21人だ。

山崎さん、大角美鶴さん(同3年)、園川裕季さん(同3年)、近藤佑美奈さん(文学部、同3年)の4人は、インターン先の英国企業で、同社社員と共に会議に出席した様子や扱う商品の説明を英語で展開したといった実例を紹介した。

その模様は会場内の大型スクリーンに映し出される。身を乗り

出して見つめる浦和学院高の生徒たち。

山崎さんは、この体験を「自分を変えたインターンシップ」と表現した。「自分とは」(園川さん)、「一生に一度の経験」(近藤さん)、「働くということ」(大角さん)と海外インターンシップの成果を総括した。

第1部終了後、経済学部の発表者4人と高校生の交流会が行われた。高校生は先輩を通じて、大学での勉強やグローバル人材育成プランなどを学んだ。

このシンポジウムは、文部科学省スーパーグローバル大学等事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(タイプA)」最終年度において、本補助事業終了後もさらに国際的に活躍できる人材を育成するための教育のあり方を考えようとの趣旨で行われた。



メンバーは緊張しながら発表した

